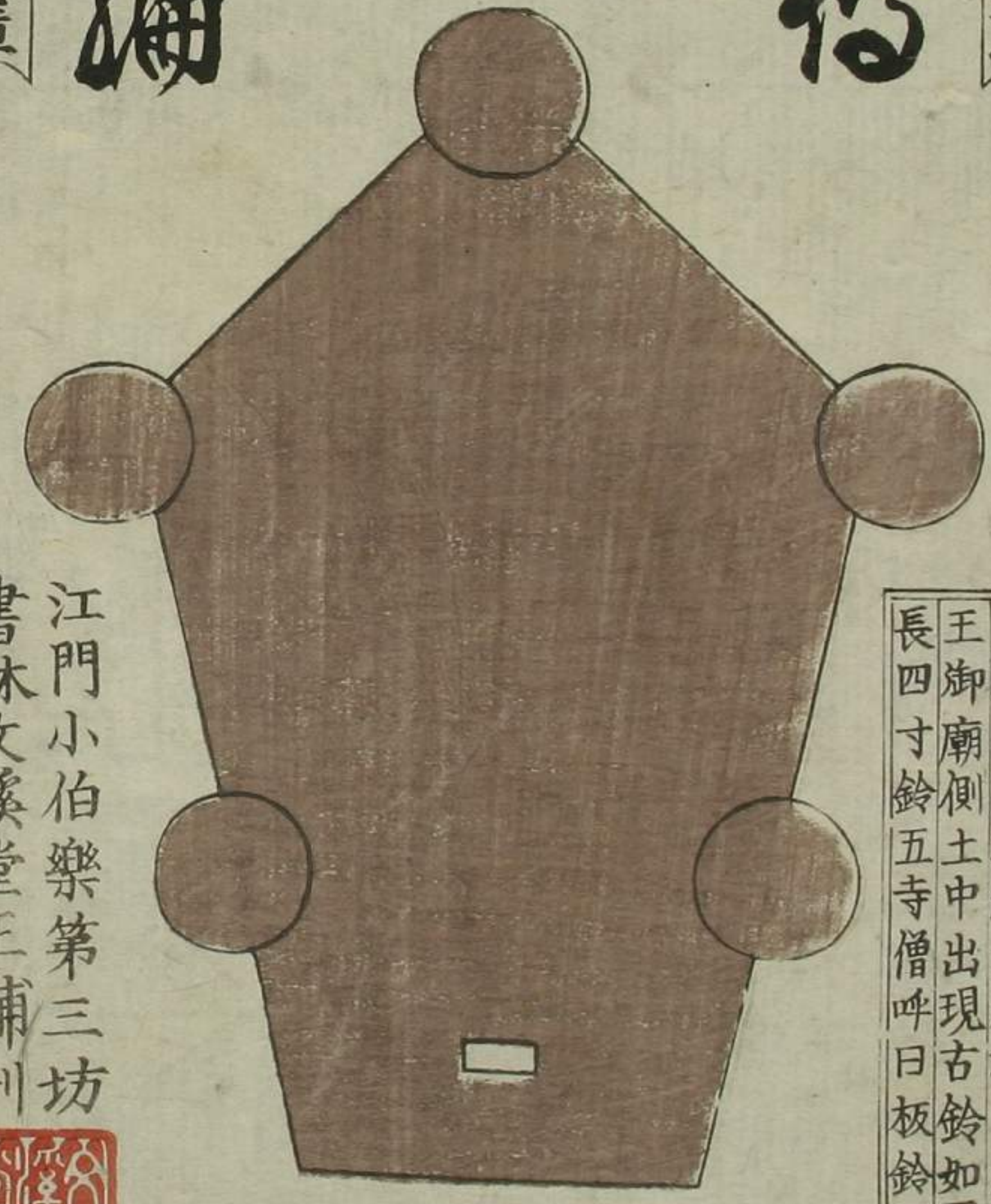


曲亭主人編次

八犬傳 第九輯 下帙 下中編

柳川重信繪畫



上總國周集郡貞元村貞元親王御廟側土中出现古鈴如圖長四寸鈴五寺僧呼曰板鈴云

江門小伯樂第三坊書林文溪堂正舖刊



南總里見八犬傳第九輯卷之二十九箇端或説教賢辨
 嚮友友人告ていへり或云本傳第九十九回素藤鬼語と云く段より第百四
 十九回一休画虎を度する段まで事々物々怪談鬼話多し稀々且上十二地
 藏の利益あり下小薬師十二神の靈異あり又前小狸兎の怪談あり後画虎の
 怪談あり其事都て重復を免れ互小相犯さざるといへとも大凡看官の怪談を
 好むと好むとあり其怪談と好む者必飽く心地去と云ふ言當れりやと
 問れり予答ていへり否不不然と云唐山大筆多稗史縁ては是を思ふべし彼
 鬼話怪談の多し獨西遊記の多しを壁水滸傳の如し又是怪談の多し
 趣向を建てる見るべし始石碣二百箇の魔鬼君を走らるるあり然石碣一百
 八箇の魔鬼君を治めて遂小宋朝の忠義士お做せし彼が一部の大趣向を作者の
 隱微あり在り予嘗水滸隱微發明評くくらあんとんそをせしむるは
 一編あり今亦贅せざ

八犬傳九輯卷二十九

文溪堂藏

高廉が幻術及九天玄女の靈驗眞助皆是に怪談を渉れり然りと金聖
歎が評云三國志演義を非く。水滸傳の毫も怪談を渉りといへり夫れを
左まれ右もあれ本傳も亦始より鬼話怪談をのり趣向を建ち。豈當九十九
回以下のあらんや。所云始は役行者の利益ある又伏姫腹を辟く。竟も八犬士
出世の張本ある奇談あり是より後又怪談を渉は者事比皆勸
懲の意のせしめたる。就中地藏茶師の靈應利益の世の怪談を惑る婦
幼及事と好む雅俗をいそ竊覚さんとき。叮寧反覆して。終りて然
るを怪談云々といふ右てもいさ覚ざる欲辨まるともいひるるべし。抑怪談
雅俗の差別あり不及を予が終る怪談の事勸懲ありざる者。あてを
世に在る所の怪談と相似て同下からざる。よく見る者予が言を俟ざるもあむか。
よの故吾常云吾漫物の本と綴り初より。此も五十餘年を實無益の

技あれども已老煉に至りてのうまき精く。十二分おせざる。然るを看實
只三分四分の二三の同好知音の評も。六七分の上を出せ其心を用ひ力を入る
精粗同トかぬ。ある所近曾人あり。予が舊作を俊寛僧都嶋物語
評も。八犬傳を除くの外是を第一の佳作とせといへり。私言の予の決して
諾るるも但予が評するものも。十目の視る所大なる同者か。人各褒貶を
其好憎儘する。必公論するもの。譽言られ終るまで人の情も。已が如く僻
者の譽言られてる。恥づけるもの。不意あるもの。己を知りて。いづくも人を知らん。或の
砥破の美を負むが為光と階玉の争ま欲。或の瑣々。小鶏彼距を
擧て力を封牛の比ま欲。如は是予が恥る所。友人又告いへ。或云本傳
第百二十一回八犬士稍全聚て俱安房へ徴れて里見の家臣あると。是宜く大
團圓る。然る又金碗の姓氏の事と説く。京師の話説十八九回あり。第百三
十一回の

末より第百四十九回に至りてある疣敷負あはせやといふ。嗚乎又此等の言ある歟本傳の京師の事と説く十數回は是始よりの腹高末なり。然るに疣敷負とせしむるは思ふ故にそあらぬ。何を何とるべし八犬士俱の安房の到りて里見の家臣あるの事。大江親兵衛を除くの外七犬士皆一介の功なるは是尸位素餐の人あるべし。犬士等かくの如くあり。可るん乎且京師の語説微りせ。俗に云田舎芝居の似て始よる説く。所東八州の事の過然む。然るに語説廣く。大部の物の本不足ざる所あり。壁に水滸傳の如し。七十回の後招安の事及京師の語説あり。あはせや。一百八箇の魔君皆よく変して宋の忠義士あるべし。倘是等の事あるて七十回を局を結ぶ。彼一百八人を梁山泊嘯聚の強人の。何をよく勸懲せしや。是れ由てこれを觀る。水滸百十回の羅貫中が一筆するの疑ひる。然るに彼金瑞の七十回以下を評して。續水滸傳とて。及酷く訛り。他が如し。水滸の皮肉を知るの。骨髓

ゆる者あり。然るに有人の臆断。本傳百三十一回を圓圖の宜かむといふ。又彼金瑞が水滸七十回を強て結局あると。日と同くを論ぜ。その吾春書寺桑榆の暮春景に至ると。看官きて本傳の結局をいそ。故に予のいそ。あはせや。ねども。腹稿尚餘あり。其遺捨ん。其の九輯下帙の下。編十卷を分卷十五冊あり。稍大圓圖に至る者あり。筆次の本輯卷の二十九。第四百十七回大江仁が三関を破る。此の出像。画工謬。作者の稿本を違へ。仁が馬上の敵の雜兵を研み捉。擲け為体。画はる。第百二十七回左右川の段の出像。仁が跪。兩敵の雜兵を抵抗。又第百四十回の出像。仁が馬上の徳用を抵抗。なる。此の彼重復。且馬上の人。研の仁相應。看官必難。又云画工足を穿て。聊改め。作者小見。知。右の一條。削去。天保十年花月念八。曲亭主人識。



南總里見八犬傳第九輯下帙之下乙號上套目錄

卷二十九

第四百十六回

白河山代四郎救小姐
談講谷親兵衛射大蟲

第四百十七回

紀二六月下逢真刺
親兵衛湖上破三關

第四百十八回

頓智之功從者妙利
奸詐之悔執權送還

第四百十九回

石藥師堂賢少年辭朝賞
東山銀閣老和尚醒驕君

第四百十回

照文捧二書還東藩
兩侯聽皮議寬京信

卷三十

卷三十一

第四百十二回

七犬煉兵夢想行三使
定正連將水陸起大軍

第四百十三回

憲重憲儀聚兵同使
行包在村忠奸異諫

第四百十四回

毛野呈計八百八人
大聽命善巧方便

本輯下帙の下野云下套のし號編の五卷迄の足る因十
卷のし號を結ぶ。その内中卷の卅と卅四五を楮敷のし號の
贅で上下各二冊を共計十五冊其十五冊の中五冊夙く彫果る
先出せる右の第四百十三回以下も必續て出せ云看官亦復俟待下

南總里見八犬傳第九輯下帙之下乙號上套目錄終



ことまれ草こまき
 まし買へ大津画
 の鬼のまき草
 あふの野乃花
 羊飼人

天杖入道総
 物持

老松湖大夫
 惟

根古下厚四郎
 鶴宗

八六傳九冊卷三

五



花
 美人似妻
 子
 松柏如天

再出
 雪吹姫

秋篠將曹
 廣世



虎とを射撃矢さのり
けむ今もこの野の石竹
の花 教者 齋

一休和尚
いっしゅうしょう

義政公
ぎせいこう

八代傳七拜卷三十九

六

文楽堂藏

昔年同氣相求處
今日同憂莫不憐



箕田取蘭二
圓通いんたうみらん



根角谷中二
麗鹿廉けりしやぶ

廉古彫ニヤ

八代傳七拜卷三十九

文楽堂藏



さみ田川をさして流るる舟
世をうた橋の井原の舟屋著作堂



下河邊莊司
行包

千代丸圖書助
豊俊

八代傳七郎三三

七八

大塚堂



君醉甚多
言垣維有
壁垣維有
耳

世智介
せらま

小オニ
MAGI
ホリ

六代傳七郎三三

大塚堂

前板第九輯下帙の下甲號五卷校閱送漏再訂抄録

○廿四の卷 三丁左 九の長歌 何の更あはれ 下の更の誤り 同 七丁左 緒の姓名 鍛冶子 治の治の誤り

同 廿五丁 右三の 懲 誤り 同 右七の 蛇 誤り 同 左三の 四月中旬 誤り

○廿五の卷 二丁左 虫積 積の誤り ○廿六の卷 二丁右 夜叉 夜叉の誤り 同 十一丁 右七の 燕雀の南

枝 雀の鶴を誤り 同 十八丁 左八の 城垣 垣の誤り 同 右八の 画蚕の眉 蚕の誤り

同 廿二丁 左八の 骨格 骨格の誤り 同 十六丁 右一の 供 供の誤り 又供 供の誤り

○廿七の卷 三丁右 只虚々 只虚々の誤り 同 四丁左 餽鬼 餽鬼の誤り 同 七丁右 見

迎らまふ 迎らまふの誤り 同 七丁左 小榎大榎 榎の誤り 同 五丁 知 知の誤り

○廿八の卷 十九丁 左六の 優 優の誤り 同 二十丁 左一 二十名 二十名の誤り 同 廿八丁 右四の 知 知の誤り

同 廿丁左 突戦 突戦の誤り 風雲 風雲の誤り 同 廿八丁 右四の 知 知の誤り

前板再訂抄録終

南總里見八天傳第九輯卷之二十九

東都 曲亭主人編次

第四百十六回 白河山に代四郎小姐を救ふ

談講谷の親兵衛大蟲と射る

却説姥雪代四郎直塚紀三と商量果る

伴の若黨奴隷との先阪本の方へといそが

談考を傳聞す那白河を暴虎の獵戸の鏡砲も及び

何をのそと防ふ暴風酒家大江腋子と入迹絶

索猛獸毒蛇の害をり伏姫神の擁護に依れ

免れと思ふのそと小心せし事あらん折争何せん

神の祐を空憑して器械持去疎忽に似ら

護るもこれ程の程に、梶原の準備せし、這談の什麼と相譚、代四郎然と領く、隨即夥兵西に召し、事急ぎと云ふ、汝達の檜の棒の宜きを六條に列卒繩と蕉火材と云う、買ひて来よ、と詞急迫く、吩咐て、錢を齎して市に遣、其後逆旅主人を召て、代四郎の言を、唯も東人大江殿、這地の御用果、これ身の暇を、明旦歸路に赴く、是れ、我々の這、唯、昏の那果、参ると、主伴の立、既、餘波、餘の、餘の外、腰餉、人別、準備せ、の、を、憑、宣示、其、羊帳、を、且、向、月、屠、の、房、錢、を、還、と、程、紀、三、と、五、條、を、客、店、に、還、去、物、整、又、と、と、邊、に、坐、お、け、の、左、右、を、程、下、哺、ま、り、時、候、那、西、二、個、の、夥、兵、の、東、西、皆、買、合、と、か、の、束、は、れ、俱、々、饌、と、喫、果、と、各、准、備、の、腰、餉、を、受、合、ふ、紀、三、が、分、足、と、思、ふ、と、思、ふ、店、小、二、伴、當、の、先、も、少、く、知、れ、紀、三、を、加、え、も、尚、の、盒、子、は、有、餘、三、の、當、代、四、郎、の、五、個、の、夥、兵、向、て、梶、原、親、兵、衛、が、遠、慮、あ、り、紀、三、を、情、地、に、留、め、別、店、に、在、

る、支、の、顛、末、と、其、先、告、げ、の、夥、兵、の、筆、と、覺、得、且、感、且、歡、び、と、憑、思、け、の、程、直、塚、紀、三、の、装、初、の、如、く、腋、甲、脛、盾、の、身、を、探、め、兩、刀、を、腰、に、五、條、の、歇、店、も、束、は、れ、代、四、郎、並、夥、兵、五、名、身、装、一、緒、に、在、川、風、寒、に、點、燭、時、候、代、四、郎、の、逆、旅、主、人、告、別、と、云、ふ、二、個、の、夥、兵、の、兩、箇、の、甲、曾、權、を、分、り、各、是、を、馳、又、兩、個、の、夥、兵、を、蕉、火、材、と、云、ふ、盒、子、を、袱、裏、之、馳、り、代、四、郎、と、首、を、あ、く、捍、棒、を、合、さ、り、紀、三、と、親、兵、衛、の、鎗、を、受、合、し、肩、に、又、只、一、個、の、夥、兵、每、行、裏、に、搭、駝、し、獨、代、四、郎、の、老、人、甲、斐、茶、甘、輕、と、笑、ひ、の、信、而、這、人、の、情、地、三、條、大、橋、を、ら、渡、り、河、原、の、守、屋、を、外、見、り、既、中、白、河、の、山、路、を、登、り、程、不、宵、の、尚、二、更、不、過、さ、り、是、より、大、家、由、断、せ、ま、り、蕉、火、を、相、照、し、疾、親、兵、衛、不、逢、ま、思、へ、不、知、案、内、多、太、山、路、の、而、野、干、玉、の、鳥、夜、を、或、の、年、を、樹、枝、に、遮、り、或、と、又、斫、屋、依、の、峨、と、と、積、れ、る、石、の、障、り、と、去、り、更、を、路、を、踏、り、迷、り、憶、さ、る、夜、深、

鮮曉の月の光の今も五とあるをいふ。思ふ時候鈍や甲夜も過りたる麓も十町
 許這方る敗堂の頭かへり来り。先小立赤一個の親兵がたの遠く吐嗟と叫べ代四郎紀二
 六自餘の親兵もあつ麻と披馬はる。先蕉火を抗て四下見ると鮮血許流れ横の
 地圖の界を越せし似る。前面兩個の僧も一個の右腕を喪ひ一個の隻脚を断離られて死
 活知を介れて在り且其鮮血印する獸の足迹の最大なる三四有けり原来這僧も那
 暴虎も喫れんと。大家猜して又驚く并中代四郎と紀二六も又火を抗て這僧を熱と
 打相ふる。あも那左右川の上より認りて徳用之堅削れ。誅ら俱小丸彈して噫無慙や
 這惡僧も奸詐毒悪る天罰徳をのりぬ。罵り親兵們もさうさうと喚住也。這
 僧も如此とて後惡破戒の崖路。告げ大家嗟嘆し。掖起して猶と見る。徳用
 堅削る脚も不具ふる。死も果と呼吸せざる。伏し衝放ち。血溢る我指を他
 袖も拭ふ程。代四郎の遠く。紀二六も見ると各々をる疲勞とらん。一乘時這里也

鶴んと。羊分朽る階小やと。隻脚を踏蹴く。うち陞えとある折られ。這堂内最婢
 娟も一個の少女の口布囊を銜られて。両と背結ねられる。氣絶やあ。頭髪を乱
 ち。俯る儘の息もせ。代四郎是驚き。陞りも果と退れ。又紀二六も徳と告げ大家
 怪と兼る蕉火振照し。齊一堂内も入り。一人件の少婦人を徐小掖起。會俱
 不。這女子。羊歳と二許や。多くは美人。其雲鬘の長く聲を其衣服の妙
 京様。是市井庸る女兒。似登時紀二六と代四郎と。豊何と相ひ
 け。小可灰不聞とあり。政元王の養女。雪吹姫と喚ぶ。の。則是今出川殿。親の妾腹
 る。京北。政元。養ひ合て鐘愛也。今茲。年歳。二許。多の。人。の。憶
 ち。那。姫。上。る。惡。僧。も。竊。合。り。て。這。地。方。へ。わ。く。來。り。時。那。暴。虎。而。撞。見。て。事
 及。び。つ。る。と。代。四。郎。領。け。り。先。這。妙。を。喚。活。て。問。ふ。け。れ。其。布。囊。と
 郷。る。索。と。俱。ふ。と。多。許。解。棄。て。大。家。喚。ひ。ね。と。同。音。ふ。則。右。も。左。も。只。音。ふ。喚。活。と。也

既小脈絶全身冷。又復くもあつたれ。大家竟の聲を止め。いふせき。とち譚ふ代
 四郎頭を傾け。好々我又せん術あり。大江和子の別。臨く事あり。時の與ふと。分ちて咱
 ち預け。姫神傳授の神茶あり。在り。定業涯あり。とも。一番其死を回。て必活
 工。是世の仙丹。と。いふ。も。要。青。吊。茶。龍。を。遠。く。合。出。し。馳。て。伴。の
 仙丹を少許分ち。妙の口中入。程。紀。二。六。を。走。出。く。石。湯。を。掬。び。て。共。侶。亦。其。只
 伏。込。入。て。胸。を。擁。聲。と。合。て。亦。復。喚。ぶ。と。半。响。許。左。右。も。程。小。件。の。妙。も。脈。も。全。身
 回。陽。り。駭。く。如。く。忽。然。と。眼。を。開。け。息。を。吻。く。衆。人。を。左。見。右。見。何。人。を
 と。向。ふ。代。四。郎。先。答。て。少。婦。人。心。の。慥。多。欲。我。們。是。別。人。を。ぞ。安。房。の。里。見。の。使。臣。大
 江。親。兵。衛。の。伴。當。る。ぞ。主。の。先。途。逢。ん。ぞ。今。宵。這。山。は。登。り。い。ま。王。を。逢。む。て
 死。身。の。死。せ。し。と。見。る。ふ。忍。び。ぞ。幸。ひ。は。腰。帶。を。起。死。回。陽。の。神。茶。と。ぞ。即。效。た。小。飲。び
 あり。と。告。げ。紀。二。六。語。を。續。て。猜。ま。ふ。身。は。是。西。陣。の。管。領。家。の。今。愛。那。雪。吹。と

喚れ。小姐。非。我。推。量。違。ふ。那。惡。僧。も。豪。奪。せ。れ。事。の。難。義。我
 及。び。さ。ま。い。ふ。事。と。事。回。入。の。憑。く。又。恥。く。さ。答。難。く。涙。を。袂。拭。堰。て。定。お
 推。量。せ。れ。如。く。奴。家。の。政。元。の。頓。鈴。女。兒。雪。吹。と。傳。へ。今。宵。枕。小。就。む。後。那。德。用。が
 潛。寄。る。も。籠。も。あ。り。這。個。の。櫃。も。ち。容。け。て。ま。り。這。敗。堂。小。兒。居。れ。更。も。兩。個。の。晝。來
 法師。の。唇。め。小。厮。迫。り。て。難。義。小。術。り。折。忽。然。と。出。來。ぬ。大。虫。小。德。用。堅。削。の
 小。脚。を。喫。き。血。も。塗。れ。て。死。活。も。知。さ。ず。奴。家。も。俱。小。胸。決。れ。け。井。が。儘。息。や。絶。お。け。ん。小
 後。の。目。を。覚。ま。柳。這。里。の。孰。の。山。を。現。再。生。の。恩。人。の。姓。名。何。と。い。ふ。所。は。願。ふ
 館。を。還。さ。れ。大。人。の。飲。び。の。身。の。上。の。幸。ひ。を。い。ふ。と。他。事。も。多。詞。の。露。露
 先。も。て。脆。は。袖。玉。を。散。る。淚。然。と。代。四。郎。の。所。へ。徐。小。慰。め。る。原。來。推。量。差。さ。ら。け。は
 那。姫。上。と。御。座。せ。よ。小。可。們。の。兵。數。も。ね。と。傳。票。を。燒。雪。代。四。郎。與。保。又。足。る。直。塚
 紀。二。六。甲。乙。共。小。七。名。は。過。ひ。も。皆。是。大。江。親。兵。衛。の。從。者。安。房。の。稻。村。と。詰。ひ。一。伴



八尋九尋三三九

十五

大泉堂藏



諸惡勿
作
衆善奉
行

八尋九尋三三九

大泉堂藏

人傳るる報けよか。路費の與不餽られる。金子幾許り知ねども。ヨクもれ言奉くま
 色分ふりて和郎等不取せ。憑むくと請求ま。堅削も共侶小當合して梓むか像
 紀六等ふら向ひ。喃親方達今師父のれい。這頭真の追隊蒐ら。既
 是脚る鮮るる。輟るは今我門の。免入。整京師。牽戻されて。縛頭
 敷るるとも。和主等不何の益ある。猶俠氣を。我門を阪本へ送り。も山割とい
 た。金子の和主の懐ある。と。恣觀面る。利得あり。と。諄復を。紀
 六等。冷笑ひく。鳥辭へ。這惡僧等。非道の本性。も。我豈香西復六の鬼
 使の走卒るんや。実り見家。使者る。蜂崎十一郎。照文の伴當也。直塚紀
 二六。即是。量。大江王の密意。よ。京。別店。居り。又。那。姥。雪。代。四
 郎。里見。恩顧。の家臣。れ。假。大江の伴當。と。稱。做。し。其。毎。と。共。侶。小。三。條。等
 客店。在。り。今日。大江王の。虎。獵。の。事。多。く。今。宵。の。先。途。逢。す。欲。さ。し。姥

雪並不我黨志ある者都々七名。情地。這山路。來。り。主。逢。す。若。們
 這。處。も。脚。を。喪。ふ。と。又。那。一。個。の。麗。人。の。布。囊。を。銜。せ。れ。死。し。堂
 内。在。り。と。見。出。ら。ち。も。置。を。神。茶。と。先。其。麗。人。を。甦。生。と。事。の。仔細。を
 諮。問。ひ。其。麗。人。の。西。陣。る。管。領。左。京。北。の。親。女。是。則。雪。吹。小。姐。也。若。們。が。竊
 出。去。り。兇。惡。の。事。の。趣。其。崖。畧。を。知。り。姥。雪。の。五。個。の。伴。の。夥。兵。を。二。名。從。へ。く。
 雪。吹。小。姐。を。西。陣。る。館。へ。と。送。り。我。亦。若。們。今。宵。一。要。時。命。を。借。り。て。
 做。り。惡。事。と。す。為。し。又。神。茶。の。奇。效。を。り。と。の。公。と。は。了。し。も。胡。意
 真。の。姓。名。を。告。ぐ。德。用。が。親。香。西。の。密。使。と。欺。け。若。們。鈍。も。謀。ら。ま。五
 個。の。猛。者。を。帮。助。と。て。大江王を害せんと欲す。と。口。走。り。爾。出。て。雨。返。る。是
 天。罰。の。致。す。所。也。思。合。せ。我。の。量。左。右。川。の。役。も。蜂。崎。の。伴。當。多。り。能。化。の
 敗。院。在。り。時。既。若。們。を。認。る。の。時。那。時。正。可。面。を。對。し。と。あ。る。今。亦。夜

視えれば若們心づらむ。身家の入心と思ひ、笑ふ堪はる白徒る哉憎むべしと。言委まらむ鮮徳せ、兩個の夥兵を拍を拍。俱々呵々を笑ひければ、然る徳用堅削ら、今この言をばも果む且敷馬に且怒り、堪はる脚の大傷復疼む。才忍と堪難、眼と瞪り、齒を切り、原来隘心見ふり、悟る。欺れる悔、拵構で、れんむと罵るが、共侶自身を起さず、欲するを。紀二六、脚を飛して、甲し一度、蹴仆せ、吐嗟と叫びて、蠢く。喘だ、起ゆ、紀二六、とと冷笑ひ、後方、立、は、兩個の夥兵を、又思ひ、野豬豺狼、那身を、獵、前、傷ら、も、尚人を、啖ふ勢、あり、這、徳用、堅削、が、獵、雄、る、且、力、の、さ、あ、る、と、忽、ふ、ま、る、各、ら、這、惡僧、も、其、頭、の、樹、幹、に、膝、着、く、姥、雪、更、門、の、か、り、ま、る、ま、る、閑、多、く、ち、成、り、あ、る、も、今、つ、る、徳用、が、謀、一、合、せ、と、河、原、の、勤、役、正、告、景、紀、真、賢、經、緯、們、四、個、の、猛、者、の、を、思、へ、大、江、主、の、上、愈、危、酒、家、の、又、剛、才、來、ぬ、舊、の、山、路、は、主、を、索、ね、く、幸、い、あ、て

適も逢つ、是若の椿事と主報と、一臂の補助ふるま、欲まの髪をあらぬ玉ひ。と諭其夥兵も異議も、定ふ介る。とと、躬、徳用と堅削を左右、を、掖、起、り、列、卒、繩、を、の、て、緊、系、あ、く、綁、り、く、其、頭、の、柱、ら、巨、樹、の、幹、寄、住、て、動、も、せ、む、敷、系、び、も、徳用も堅削も、氣力既衰へ、只身の苦痛、堪はる、阿、谷、々、々、と、あ、る、在、り、け、と、兩、個、の、夥、兵、も、ち、笑、ひ、て、何、や、物、の、本、を、見、る、出、家、る、者、女、人、の、も、よ、り、授、受、る、と、あ、れ、五、百、生、の、其、間、も、る、者、生、る、と、説、れ、經、文、宣、ふ、以、あ、り、這、兩、個、の、惡、僧、が、言、茶、虎、の、類、稀、る、恩、顧、の、檀、那、の、小、嬢、子、と、綁、縛、は、て、這、頭、ま、る、遠、く、お、走、り、る、業、報、の、來、世、を、待、ま、其、夜、の、中、那、虎、其、羊、體、を、傷、ら、れ、て、生、を、も、易、む、る、者、脚、を、踏、者、お、做、ら、け、る、神、明、佛、陀、の、宣、訓、を、人、を、知、ら、ね、並、て、世、の、破、戒、和、尚、の、鍼、砭、を、う、ん、と、只、間、不、紀、二、六、を、腰、に、吊、り、草、鞋、を、合、は、て、敗、死、を、脱、棄、て、遠、く、穿、易、て、鎧、を、合、く、肩、か、し、兩、個、の、夥、兵、も、ち、對、ひ、介

一垂時別れん其悪僧の左を右に出没不測の暴虎也。小心せむらあつら
 らん。這頭の諸木の枯枝をらん。通宵焼明して登る由断を去ぬひそといへが野
 兵も點頭を開き既ふらるる。咱毎多和殿を山路の小心緊要をれ。紀
 二六少捨る然がととなり蕉火を乗りり。踵を旋り。北白河のくへり死けり。
 話分両頭。その日大江親兵衛の途に紀二六別をよ。そ儘馬の脚撥を早
 り。航て宿所かからるる送り不隸にける。両個の青侍を勞ひ返り去る。却
 宿所の隸若黨。那馬走帆を指示して。這馬の箇様々々。恩賜のしを
 告知り宜く勤りぬ。と若黨則あつら。奴隸毎か吩咐其の奴隸毎時を程
 さ。馬を背門に牽入。秣を飼を。程親兵衛の徐やく。毎小居る坐席か
 へ坐して。那兩個の管管を召く。面談せむ。思ふ折も。管管の親兵衛が
 今宵白河山のり登り。虎獵との事の趣を。早くもあふ来ふれば。

親兵衛隨即兩個の管管對面し。御向管領家の懇命辭ふ由。那
 虎對治の事情を告む。管管答てい。其義の方僅有司より傳へられ
 へ。都てあつら。虎獵少弓箭鏃砲の餘も欲り。兵器械あらん。何れ
 準備を取せ。とあ。下知はれ。美り。仰せ。を親兵衛うち
 少。開。承。く。い。我山獵の身單。東西。互。要。只。良。弓。一
 張。と。獵。箭。十二。條。あ。足。れ。り。と。ま。の。餘。の。豆。草。一。囊。と。乾。飯。一。盒。子。と。准。備。し。て
 あり。そ。中。の。前。小。聊。好。ま。り。十二。條。の。内。中。十。條。の。箭。則。皆。其。鏃。を。抜。去。り。て
 代。る。形。状。粉。團。の。如。く。木。丸。を。り。と。ま。へ。弓。も。角。弓。を。好。と。せ。ん。の。矢。を。憑。こ
 ぬ。もの。と。い。ふ。管。管。も。あ。つ。ら。遠。く。退。り。約。莫。一。晌。許。し。て。兩。個。の。管。管
 復。來。て。親。兵。衛。に。報。る。御。向。逃。へ。る。獵。弓。獵。箭。を。准。備。仕。り。ぬ。とい。ひ。後
 方。と。さ。へ。り。と。喚。立。ま。し。則。兩。個。の。隸。若。黨。件。の。弓。箭。矢。服。を。執。執。是。て

きて未だつを一個の嘗管受合々々。卒と親兵衛が身息遠謀措けり。登時親
 兵衛の歎びを陳勞ひく。先其弓と合を抗て素齋して試つ又其前を見る果
 獵箭の二條のその他十箭の皆鏃と抜去。代る木丸をりて是を孰も是良
 工のなる成もろとちやくて都々意不稱ひく。謝して嘗管もふさう東西既
 此の這暎日より我身單中馬を那山出找むべし。抑這回の虎獵の我存亡不定
 る。倘不幸わいて虎の逢む山を下る日るもあべく又那虎の値も力足る命と
 殞さん。此も各々各位の云々一條あり。這月屬管領家の恩賜の衣裳武器
 調度の其折々の目録を相添へ始りて各位の関けもあせられ今もあらん
 我命運を思量まへ今中用る所。因返りなすも欲も異日宜くあゆと
 ぞえ上られんことを願ふ。と云を嘗管もうちきく其義あるゆへも君が武藝の
 五虎も及び出没不測の变化とも今獵る所一虎の今嘗對治の大功あ

らる。前の賜ふ弥増て安房へ齋へぬん秋介の時世の常言云故御飾
 錦糸と詞弁く慰まへ親兵衛頭をうち掉す。否と我幸い虎を對治の
 功成ら。恩賞も身の暇をぬり。安房へ還る。元約束あり。餘の千金萬
 金の賜りとも願ふ。明日の必件の一義をぞえと。那々東西で宝庫へ返
 納めぬ。今も時分なる。又議の要るるべし。とられて嘗官も強は
 由る。今も先浴して夕饌ふ就ぬ。ねと応て馳退り。後而親兵衛の諫
 僕の案内儘して先浴室へ赴き。徐湯浴果てぬ。末ぬれ。兩個の若黨給
 侍して夕饌を差る。合茶する。毎より數を増。且中酒の礼あり。嘗管も又
 知く末て不益を薦めるとも既わいて御食饌果から。親兵衛の歎びを舒且退る。
 身其衣を敷正る。比皆是安房より来る衣裳也。敢京様の新しを用ひ。肌膚
 南蛮鍔の鏢衫と被下。同生鍔の細細肌甲筋鍔打。脛衣の紐向き。縮

做（し）上（う）申（ま）を（を）絞（ひ）小（こ）菱（しや）の（の）小（こ）袖（そで）水（みづ）色（いろ）湖（う）袖（そで）の（の）膝（ひざ）膊（たか）の（の）小（こ）袖（そで）を（を）下（した）襲（お）ふ（ふ）て（て）纏（まと）纏（まと）純（じゆん）
 子（こ）細（こ）縁（えん）の（の）野（の）袴（はかま）を（を）下（した）短（た）小（こ）穿（く）做（し）し（し）姫（ひめ）神（かみ）授（ま）與（よ）の（の）短（た）刀（や）と（と）小（こ）月（げつ）形（がた）の（の）大（おほ）刀（や）小（こ）尻（し）鞋（か）
 被（ひ）し（し）腰（こし）を（を）腰（こし）を（を）跨（か）り（り）左（ひだり）袖（そで）を（を）膝（ひざ）卷（ま）り（り）片（かた）袴（はかま）を（を）襞（ひ）す（す）射（や）る（る）時（とき）の（の）便（べん）宜（い）と（と）甘（あま）や（や）
 矢（や）服（ふく）小（こ）袴（はかま）十（じゆ）有（あ）二（に）條（じょう）の（の）箭（や）を（を）皆（みな）高（たか）小（こ）駝（た）做（し）頭（あたま）小（こ）銀（ぎん）の（の）裏（うら）研（けん）の（の）騎（き）射（や）笠（かさ）
 戴（か）ひ（ひ）脚（あし）小（こ）麻（あ）織（お）の（の）戰（いくさ）鞋（か）の（の）緒（いと）を（を）結（む）ひ（ひ）て（て）小（こ）明（あ）製（せい）衣（い）の（の）角（かく）弓（きう）を（を）握（にぎ）持（ぢ）し（し）打（う）拍（ぱ）
 華（か）美（み）る（る）ぎ（ぎ）て（て）勇（ゆう）士（し）の（の）氣（き）象（さう）凜（りん）然（ぜん）と（と）人（ひと）皆（みな）悄（せう）地（ぢ）小（こ）感（かん）下（か）け（け）小（こ）程（ほど）小（こ）大（おほ）江（え）親（しん）
 兵（へい）衛（ゑい）の（の）身（み）装（さう）既（い）成（じやう）り（り）准（じゆん）備（び）の（の）乾（けん）飯（はん）を（を）装（ま）ふ（ふ）盒（は）子（こ）を（を）右（みぎ）の（の）腰（こし）小（こ）吊（つ）り（り）
 堂（だう）管（くわん）若（じやく）黨（たう）の（の）餘（あ）の（の）隸（れき）僕（ぼく）小（こ）至（いた）る（る）身（み）邊（へ）邊（へ）在（あ）る（る）比（ひ）皆（みな）別（べつ）を（を）告（あ）げ（げ）徐（じゆ）外（がい）稟（れん）
 立（た）出（だ）れ（れ）兩（らう）個（こ）の（の）隸（れき）僕（ぼく）那（な）名（な）馬（ば）走（しゆ）帆（はん）小（こ）飽（あ）ま（ま）豆（ま）草（そう）を（を）喫（く）せ（せ）且（かつ）准（じゆん）備（び）の（の）林（りん）一（いつ）囊（なう）
 其（その）鞍（あ）下（か）小（こ）吊（つ）り（り）を（を）牽（ひ）り（り）半（はん）て（て）庭（てい）在（あ）る（る）鞍（あ）鏡（きやう）比（ひ）皆（みな）具（ぐ）初（しよ）の（の）如（ごと）く（く）欠（か）る（る）所（ところ）祈（いの）る（る）け（け）
 親（おや）兵（へい）衛（ゑい）の（の）今（いま）日（にち）既（い）小（こ）郎（らう）中（ちゆう）騎（き）馬（ば）の（の）免（めん）許（きょ）を（を）乞（こ）ひ（ひ）て（て）憚（た）る（る）死（し）小（こ）あ（あ）る（る）と（と）件（けん）の（の）馬（ば）小（こ）ら（ら）

跨（か）る（る）程（ほど）小（こ）一（いつ）個（こ）の（の）若（じやく）黨（たう）遠（えん）く（く）馬（ば）上（じやう）張（ちやう）燈（てい）を（を）も（も）り（り）出（だ）て（て）是（こ）緊（きん）要（えい）の（の）東（とう）西（せい）る（る）
 携（た）へ（へ）る（る）の（の）若（じやく）黨（たう）の（の）如（ごと）く（く）躬（かみ）を（を）找（た）し（し）て（て）卒（しやく）と（と）叩（たた）き（き）指（さ）さ（さ）を（を）親（おや）兵（へい）衛（ゑい）見（み）頭（あたま）を（を）
 掉（た）く（く）不（ふ）吉（きち）今（いま）宵（しやう）小（こ）甲（が）夜（や）闇（あん）と（と）も（も）咱（わが）の（の）要（えい）と（と）辭（こと）を（を）躬（かみ）を（を）片（かた）鞆（たう）や（や）馬（ば）の（の）
 鼻（は）梁（りやう）無（む）統（たう）ら（ら）後（ご）門（もん）を（を）投（な）げ（げ）打（う）た（た）れ（れ）堂（だう）管（くわん）の（の）庭（てい）門（もん）小（こ）立（た）り（り）俱（く）是（こ）是（こ）目（め）
 送（お）り（り）兩（らう）個（こ）の（の）若（じやく）黨（たう）隸（れき）探（たん）の（の）奴（ぬ）隸（れき）後（ご）門（もん）を（を）出（だ）送（お）り（り）門（もん）子（こ）小（こ）木（も）牌（はい）を（を）遞（た）し（し）て（て）
 下（した）知（ち）の（の）恒（こ）る（る）ぬ（ぬ）を（を）告（あ）げ（げ）騎（き）馬（ば）の（の）出（だ）り（り）障（さう）の（の）あ（あ）る（る）も（も）あ（あ）る（る）當（たう）下（か）若（じやく）黨（たう）隸（れき）僕（ぼく）
 們（われ）の（の）親（おや）兵（へい）衛（ゑい）の（の）日（にち）屬（じやく）心（しん）長（ちやう）閑（かん）け（け）て（て）好（こう）意（い）淡（たん）く（く）の（の）思（おも）ひ（ひ）を（を）飲（の）み（み）有（あ）親（おや）兵（へい）衛（ゑい）別（べつ）を（を）
 惜（お）ひ（ひ）ぬ（ぬ）現（げん）十（じゆ）萬（まん）の（の）敵（てき）を（を）逆（さか）す（す）人（ひと）小（こ）先（せん）と（と）て（て）鎗（しやう）を（を）入（い）り（り）反（はん）り（り）易（い）く（く）今（いま）身（み）單（だん）や（や）
 那（な）暴（ぼう）虎（こ）を（を）對（たい）治（ち）の（の）大（おほ）功（こう）あ（あ）る（る）工（こう）最（さい）難（なん）と（と）も（も）か（か）ら（ら）と（と）情（じやう）語（ご）と（と）且（かつ）沾（せん）と（と）其（その）片（かた）
 影（かげ）の（の）足（あし）を（を）退（たい）難（なん）と（と）惘（わう）然（ぜん）ら（ら）小（こ）程（ほど）小（こ）大（おほ）江（え）親（しん）兵（へい）衛（ゑい）の（の）徐（じゆ）小（こ）馬（ば）を（を）找（た）し（し）白（はく）
 河（か）山（さん）を（を）投（な）げ（げ）程（ほど）小（こ）小（こ）千（せん）町（ちやう）不（ふ）足（そく）ら（ら）と（と）て（て）日（にち）既（い）小（こ）没（ぼつ）果（くわ）の（の）黒（くろ）白（はく）も（も）別（べつ）ぬ（ぬ）鳥（とり）夜（や）を（を）

懐在る那仁字の灵玉の車十五乘を照らすと夢を唐山下和壁も優
去向幾許の照らす非や神の真助の不知案内山路入りも敢迷を
時代の四郎們が三條を歌店を辭去ると然るに速速を路異か
れ逢らけり然る親兵衛の這宵初更の比及白河の山脚より腰約やく
馬の足搔ふ件々馳てうち登る白河の里を稍過る右往左往路の九
折る嶮岨を厭む冬の夜漸々深く隨萬萬聲響る鐵々と流る溪
水の音はるもの山四の沙石茸々たる荆棘は自是馬蹄を惱と路去り
多る樹間を漏る星光の時るぬ堂あわむ面を拂ふ夜の山風は鋭と
膝九も勝るべし或樹枝交る処鞍伏され竹笠を奪れと或落葉の積
処を音ありと水を渡る水似たり既又時分ふまて八月の山峽を離れて霜相の
厚さを覺え影の谿谷不限あり夜の深さを知る向られ清輝を千仞の白雲

横り野波の帽子を疑れ直下其深谷幽静ゆく葛藤の長る久目路の
棧を怪ま山又山を巡り來りける親兵衛一霎時馬を駐め四下と熟見れば
地圖の據りて逆知るは是在昔法勝寺の執行俊寛僧都が山莊あり
當時那俊寛們が後白河太上天白美の奉為の平家を討んと異身同意の
毎を其山莊に招會し悄悄地相謀りた云故事は憑る後人則ち名を喚て
談合谷と云えけり開左もあれ右もあれ我れ通宵山巡りて既小曉天及ぶ今ま
で虎小遇ざる命運茲小薄くあり故郷へ還る日るらん然る中も我兩館れ
威福を戴け姫神擁護の真助と仰ぐ我忠信のありその依り安を已にと獨
語の憶むも嗟嘆小堪ね惘然と浩処小風吹あふぬ前百小葉最立枯草の
偃ま如くまくと戦とて駭れ馬の猛可嘶に狂を親兵衛林定と兼駐めて
物とあわめと矢服を獵箭二條抽合る左も角弓扱と眼を配る馬上の身

構其処ともうぬ那時速一猛虎の一聲凄く。峯を振一谷小响して突然として
 走り出来る毛屬の則別物なるも回でも多に那暴虎牙を鳴り爪を張る眼の光の
 人を射て面も掉をも親兵衛が乗る馬の後脚を噬仆さんと跳り蒐るを親兵衛早
 く馬を飛して縦横自身小馳輪らる馬上の自由へゆへ馬も名も負ふ走帆の順風を
 ゆる小異なるも虎の來ぬるも未然不知りて駭怕れ初小似ぎ進退奔走主の隨意其
 も獲るも臥石より依岨の印底葛藤敏系依松柏中赤を駐め歩み虎のゆく
 焦燥ち哮り只管馳ま欲されも勢い便宜とゆらけり。是や元人羅晉中が水
 岸傍小いふとあり虎の人を馳んとする小尚諺とゆらると西二番及ぶ時敢又容易く
 せと聊其身を退て更便宜と現ふ者とを然らば今這虎も親兵衛が乗る依
 馬を馳倒ま欲するも幾番も及び小人馬の進退至妙も其便りとゆらう一
 ひ挽も近つゆぞ其頭小老る赤松の周匝十圍小餘るあり則る樹小身も寓て

背を高く一頭を低れ又其便宜を待つ程小親兵衛に相距ると既中て七八回早
 くも馬を騎居て弓を前刺し程もあき虎の提地頭と拾はて走蒐らんとある處を能
 彎り固めく。彈と射る善射の弓勢矢局錯る。虎の左の眼を射らる。鏃あまると赤
 松の幹四五寸射入り。虎の一聲高く哮り。其箭を抜を挿れく處を親兵衛
 透さる二の箭を發して又只虎の右の眼を樹幹逼て申ける。任せて虎と両眼
 共射られて其躬所堪ぬ立地不哀果て才其尾を動まの。親兵衛の足を見てゆ
 たり。馬より下立。走りゆつる右の巻を握固め。虎の眉間を三四破と搏し。李廣弓勢馮
 婦が効力兩るゆらる勇士は勝由も虎の腦骨碎け皮陥りて軟々と撃れけり。
 第百四十首 紀二六月下小直刺は逢ふ
 親兵衛湖上の三関を破る
 登時大江親兵衛へ虎の斃れと見て短刀小挿る刀子と抜出令直と



志乃

神箭差かみせんさ
 虎妖こま
 對治たいぢせし處

八咫鏡

廿五

女御堂藏



八咫鏡

女御堂藏

虎の隻耳を研令。懐の楚と夾め。刀子を挿入して。始々後方と見え。名馬
 走帆。走りの去る。舊處に在り。合笑。馬の額を拍り。這馬
 進退。駿足を。我豈。輒く成さ。曩我老侯の賜り。青海波。傷
 とも劣る。今宵の掙。実功を分。尙。稱を。馳て其邊
 樹下。繫。時月を。燭。四下を。觀。小白の像。回。天然石。あり。是。究
 竟と。掖起。馬邊。推居。鞍下。囊と。解。豆草。件の。回石。容
 馬。留。且。馬柄。杖。石。滴。を。汲。又。只。水。を。喫。我身。別。原。尻。を。拭
 姑且。憩。居。程。左。樹。間。蕉。火。吹。鬼。燐。火。隱。々。と。遙。見。を。

親兵衛。見。會。笑。あ。大江。君。恙。那。暴。虎。甚。麻。と。向。親。兵
 衛。否。別。美。も。後。了。解。示。山。路。夜。犯。和。郎。只。一。個。来。け。

故。と。あ。め。い。と。名。と。向。復。さ。れ。然。小。僧。焼。雪。叟。御。教。諭。を。知。る。わ。れ。も。尚
 已。と。い。は。る。う。わ。れ。の。故。箇。様。々。か。折。代。四。郎。と。商。量。し。伴。若。黨。と。抜。隸。の。
 皆。阪。本。の。方。へ。と。半。遣。代。四。郎。と。紀。三。と。野。兵。五。名。の。主。の。先。途。逢。ん。と。這。山。路。
 来。ぬ。又。德。用。堅。削。の。又。雪。吹。姬。の。事。且。其。死。を。救。い。の。又。德。用。が。謀。合。と。
 云。五。虎。の。猛。者。の。首。より。尾。まで。送。る。報。で。又。雪。吹。姬。の。事。且。其。死。を。救。い。の。又。德。用。が。謀。合。と。
 返。さ。ん。と。野。兵。三。名。を。従。へ。昇。り。西。陣。へ。赴。か。ぬ。小。可。ハ。那。德。用。堅。削。を。結。紐。
 下。樹。下。の。敷。系。に。則。両。個。の。野。兵。連。守。り。猶。且。那。五。虎。の。寇。做。さ。る。を。
 早。く。和。君。小。告。す。欲。し。不。這。身。單。の。危。見。え。亦。復。家。来。お。け。る。事。以。不。
 あ。て。今。あ。史。逢。ま。り。て。を。娛。し。け。れ。那。兩。個。の。惡。僧。の。天。罰。像。の。如。く。な。れ。後。易。不。

のなる故るん。夙くも心つた。我の虎の眼を射る。既ゆく那虎の両眼共。此
 深く射られて。その目子を喪ひ。立地の敵死れ。然れども。那箭を抜く。忽地其
 原幅よか。入るとあるべし。と思ふより。箭を抜き。人を見せ。後まの證據。せ
 ず。欲するの。徳而今再思ふ。今番虎害。小遇ける。諸人。那風とやら。首を
 或の行客。武士。獵戸。多く。是不良人。中。善人の其害。ある。一個も。これ。あつた。せ
 風聲。小。つ。は。是。靈虎。あ。暴虐。の。唯。其人。小。繇。る。の。小。は。那。虎。我。を
 見て。敢。退。く。氣。色。も。只。音。小。駈。仆。し。て。害。せ。んと。の。欲。あ。り。我。も。亦。牙。人。の。欲。我
 生。平。小。約。ふ。所。仁。義。忠。恕。の。外。に。は。欠。る。所。尚。あ。る。欲。是。も。亦。我。撓。る。忠。心。を
 憐。れ。ぬ。神。明。佛。陀。の。自。然。の。方。便。り。と。虎。は。猛。威。を。振。り。我。小。射。さ。せ。這。功
 り。故。御。へ。返。さ。せ。ぬ。ら。ん。と。悟。れ。疑。ふ。り。も。な。我。始。より。任。ま。さ。ぬ。思。ひ。ゆ。は。小
 あ。ら。ね。ども。准。備。の。獵。箭。前。二。筋。の。其。餘。の。十。筋。の。鏃。を。棄。棄。し。易。ろ。木。丸。を。り。

あり。這意を推ても見よ。山幸あり。虎を擣る時。我矢局屈む。初箭二の
 箭前。中ら。非。如。幾。箭。を。射。ぬ。とも。竟。ふ。七。の。甲。非。文。あ。る。と。り。け。ん。倘。亦。時。運。小。稱。ひ。を
 二。筋。前。あ。る。足。さ。る。と。る。必。思。ふ。矢。局。を。射。んと。豫。深。念。を。あ。れ。ん。又。這。十。條。の。鏃。を
 抜。去。く。代。る。木。丸。を。り。せ。も。豫。より。主。張。あり。徳。用。正。告。真。賢。直。道。景。紀。們。の
 那。身。武。藝。の。未。熟。と。思。つ。我。を。怨。る。と。の。や。あ。ら。ぬ。介。ら。ぬ。我。今。宵。の。山。獵。を
 ぞ。知。り。狙。撃。す。欲。する。の。是。あ。る。死。狀。さ。も。あ。ら。ぬ。皆。射。く。小。を。懲。ま。べ。し。あ。れ
 ども。那。僧。俗。の。皆。政。元。王。の。恩。顧。の。者。一。人。も。死。小。至。ふ。必。又。怨。と。迷。し。て
 我。君。侯。の。死。為。小。宜。し。と。思。憚。り。敢。殺。さ。ぬ。准。備。を。あ。ら。ぬ。果。し。て。他。們。の。徳
 用の。薦。め。よ。り。て。力。を。勦。し。て。我。を。撃。つ。欲。する。狀。遮。莫。今。の。も。曉。天。の。速。く。果
 い。ま。他。們。子。逢。さ。る。他。們。が。商。量。一。致。せ。果。さ。る。故。小。を。徳。用。と。堅。削。の。果。敢。る
 虎。害。小。遇。る。ら。む。と。心。の。秘。密。う。ち。出。し。て。言。詳。小。解。示。せ。紀。二。六。を。ゆ。く。と。毎。小

只感嘆の聲と断ぞ听果く。吻と息をつ死く。定小和君の神機妙弄人意の
 表ふ出ざる者多く。至妙と稱えも猶餘りあり。既小徳用堅削の死人小弁けられ
 患る。且御稽查小錯小とる。那五虎の毎の衆心速小一決せ。果さるる
 以然りとも天の明るまで。小心せむあるべからず。二箇所の関を踏め。小可御
 伴仕らむ。と云を親兵衛守あま。それも要る。ふりと。推禁め。天うち仰せ。
 今ハ明る小程もあらず。我ハ辛崎阪本の新関を疾過り。且路次をいで。一日も早
 く。歸國せむ。欲する。汝ハ天の明るまで。那虎の骸を守り。政元主の人來
 るとあふ。我意と示し。虎を遮與し。姥雪野兵衛共侶小徐小歸路小赴せ。ね
 我既小虎を對治の幸あれ。政元主更小又我を留め。欲する。と云を設る。小
 由る。うん。姥雪並小汝も。又料ら。て雪吹小姐の窮厄を。救ひ給る。主僕
 一致の功を。汝も後より來ぬるとも。必障りあるべからず。枉く。這議小儘一終と

論其紀三六強る由。沈吟たる頭を拾け。今ハ左右も仕らむ。今夜
 長死時候る。物欲く。うらひけ。其頭の準備小飲小可も。惣一敗堂。其
 携へる。盒子。ヨヌれ。今ハ要。速く。かり。と云を親兵衛守あま。否。乾飯。准
 備。これ。も。開。る。萬一。の。為。ふ。く。無。と。も。饑。る。ふ。わ。む。開。を。何。と。と。る。ハ。姫。神。授
 與の神茶。只病病。即效ある。と。も。窮。く。飢。小。甚。小。折。聊。これ。を。腹。さ。ま。ハ。
 幾日。も。敢。餓。を。凍。む。千里。を。仍。中。も。自由。や。て。奔。馬。小。異。る。と。と。逆。示。教。と。美。る
 かし。其。妙。の。試。む。今。番。ハ。必。神。茶。の。奇。效。小。憑。ん。と。思。へ。我。既。小。御。使。と。果
 去。後。の。僞。居。宛。敵。地。小。在。る。不。似。ら。ず。の。故。小。裏。小。悄。地。小。姥。雪。小。意。衷。と。示
 去。神。茶。と。分。ち。與。へ。申。斐。あ。り。今。宵。料。ら。む。雪。吹。小姐。の。必。死。を。救。ひ。て。我。與。小
 光。り。と。増。さ。る。幸。の。さ。ら。今。より。て。神。茶。の。奇。效。小。あり。餓。む。凍。え。腐。走。る。小。及
 び。て。神。速。く。亦。可。ら。む。と。解。諭。其。紀。三。六。愈。感。服。と。原。來。事。皆。姫。神。の。影。小

立貌不添そそ。隈ま守まもる。所ところ以もつ不危あや。り。由ゆ反かへ。安やす。如ごと立た息ま。る。所ところり。も。
 成なりと。あ。其その數かず。る。小ち可か。も。ま。和わ君きみの。伴とも。不な。立た。れ。ば。も。祈いの。ら。も。那な。實まこと。助たす。け。あり。
 け。の。さ。て。も。く。と。な。ら。ふ。欽あこ。ひ。涯はた。の。さ。り。ける。當あた。下した。親おや。兵へい。衛ゑい。身み。を。起た。し。く。馬うま。の。傍たもと。に。立た。り。
 程ほど。不な。紀き。二ふた。六む。ち。遠とほ。く。絆たづな。を。解と。く。鏝くわ。を。合あ。は。る。と。あ。ま。と。待まち。む。親おや。兵へい。衛ゑい。弓ゆみ。の。弦つる。と。口くち。お。
 銜くちえ。馬うま。不な。肉にく。の。と。う。ち。跨また。り。又また。紀き。二ふた。六む。ち。を。喚よび。被ひ。く。や。直ひたつ。塚つた。和わ。郎らう。の。姑めい。且かつ。あ。小ち。居ゐ。よ。姥おば。
 雪ゆき。叟おきな。も。我われ。意い。を。借か。へ。後あと。より。俱とも。不な。来こ。よ。か。と。紀き。二ふた。六む。ち。を。あ。其その。美み。は。あ。る。る。
 ひ。い。ぬ。噫あや。や。我われ。と。来き。る。是これ。の。鎗やり。を。爭い。何なん。い。せ。推お。か。さ。せ。ぬ。い。ま。と。い。へ。親おや。兵へい。衛ゑい。頭かぶ。を。
 掉お。ろ。否いな。我われ。身み。を。弓ゆみ。箭や。前まへ。の。是これ。不な。優まう。る。案か。山さん。子し。の。鎗やり。に。汝なん。推お。か。さ。せ。ぬ。い。ま。と。い。へ。親おや。兵へい。衛ゑい。頭かぶ。を。
 衛まも。り。不な。せ。よ。然しか。ふ。く。と。な。ら。ふ。心こころ。の。鞆たづな。を。ま。る。日ひ。本ほん。魂たま。唐たう。崎き。の。関せき。路ぢ。を。投な。げ。徐あや。々やく。と。
 馬うま。の。足あし。撥は。を。找さが。め。け。り。倭やまと。而して。大おほ。江え。親おや。兵へい。衛ゑい。紀き。二ふた。六む。ち。相あ。別わか。れ。湖うみ。水みづ。の。方かた。に。赴おもむ。き。不な。談だん。
 講こう。谷や。今いま。俗よく。談だん。より。く。南みな。辛か。崎き。又また。唐たう。崎き。不な。届とど。る。捷あや。徑ぢ。あり。と。豫よ。聞き。け。も。私ひそ。徑ぢ。中ちゆう。且かつ。

其その。山やま。路ぢ。の。峻たけ。岨せ。る。馬うま。蹄ひ。と。疲つか。れ。ま。と。申まを。す。思おも。へ。胡こ。意い。遠とほ。く。を。敷ふ。き。針はり。伏ふ。大おほ。縣けん。
 る。と。山やま。里さと。を。う。ち。過す。り。山やま。中ちゆう。村むら。に。来き。ぬ。程ほど。天あま。の。將まさ。明あき。ん。と。俗よく。云い。ふ。山やま。中ちゆう。越こ。え。る。
 る。這この。山やま。脚あし。の。南みな。の。方かた。に。新あたら。関せき。あり。是これ。を。辛か。崎き。の。関せき。と。唱な。め。り。も。南みな。辛か。崎き。を。う。ち。過す。り。
 思おも。へ。の。餘あま。阪はん。本ほん。大おほ。津つ。中ちゆう。に。新あたら。関せき。あり。其その。間ま。遠とほ。く。と。是これ。三さん。関せき。の。と。く。相あ。構かま。へ。相あ。
 共とも。輔すけ。助たす。け。く。と。非ひ。常じょう。と。敬いそ。言こと。ん。を。親おや。兵へい。衛ゑい。の。風かぜ。念ねん。あり。東とう。海かい。道どう。の。大おほ。津つ。の。外そと。に。其その。
 地ち。々々。の。守まも。護ご。城じやう。主しゆう。の。構かま。へ。る。新あたら。関せき。を。不な。見み。ら。ん。と。我われ。の。辛か。崎き。阪はん。本ほん。より。路ぢ。を。志し。
 津つ。嶽たけ。の。方かた。に。取と。り。岐ま。岐ま。より。安あ。房ぼう。へ。還かへ。ん。と。豫よ。聞き。け。思おも。ひ。決き。め。る。間ま。話わ。休やす。題だい。既すで。不な。
 大おほ。江え。親おや。兵へい。衛ゑい。の。馬うま。を。早はや。め。り。件けん。の。関せき。不な。近ちか。づ。程ほど。天あま。の。晴は。り。や。明あ。け。更さら。り。茂も。林りん。を。
 離はな。れ。鴉から。の。聲こゑ。遠とほ。く。登のぼ。り。登のぼ。り。時とき。親おや。兵へい。衛ゑい。の。関せき。門かど。の。頭あたま。に。則すなは。ち。馬うま。より。下した。立た。り。
 馬うま。を。柳やなぎ。下した。の。敷ふ。き。身み。單たん。門かど。内うち。に。入い。り。守まも。屋や。の。士し。卒そつ。不な。向むか。ひ。と。お。ろ。晚ゆふ。生せい。と。
 安あ。房ぼう。の。里さと。見み。の。使し。臣しん。大おほ。江え。親おや。兵へい。衛ゑい。仁に。是これ。今いま。番ばん。室しつ。町ちやう。殿てん。の。御ご。用よう。果くわ。く。身み。の。暇ひま。を。

今もる那那里在るや。ゆゑに虚実を檢せよと。いそいで遣せし。このみどり。素より小胆病者るれ。只得其山路。小赴く程。僅小三四町。俱小樹蔭。小立在る。悄やく小商量。まをさす。那那里。虎へ變化る。係小二十。足る。後生の武藝。小捷ま。ころとも。輒く射殺さる。穴獸。小あ。意。小那大江。とやら。計り。関を過。と。伴り。る。小あ。と。一個。ぐ。皆。點頭。然。其。頭。を。と。思。つ。虚。々。と。那。里。小到る。時。反。く。虎。小撞。見。誰。う。免。る。者。あ。ん。所。詮。あ。也。時。を。移。して。立。く。と。稟。え。ん。小可。毎。談。講。谷。小赴。く。樹。の。下。品。の。間。ま。で。隈。ま。く。索。ひ。ひ。ひ。死。小。獸。を。免。でも。是。あ。る。を。を。を。い。ひ。は。是。必。大。江。と。やら。が。伴。誰。小。そ。い。つ。あ。と。報。る。小。優。ま。と。あ。る。べ。く。と。い。ふ。初。の。一。人。も。を。れ。で。と。く。と。応。へ。俱。小。雜。談。と。胡。意。時。を。移。し。け。小。程。小。大。江。親。兵。衛。へ。信。る。伎。倆。を。知。る。り。も。く。其。實。檢。使。の。か。う。來。ぬ。と。考。へ。と。約。莫。二。時。許。已。牌。近。く。る。り。心。連。り。小。焦。燥。く。門。を。喚。り。催。促。ま。る。小。只。忘。々。と。なる。

少許。許さくもあ。され。心。悄。地。小疑。ひ。又。関。門。小立。ま。る。耳。を。傾。け。息。を。龍。と。裏。面。の。形。勢。を。視。ふ。小馬。小鞍。措。く。鑢。子。の。响。鎧。の。吊。腿。の。音。々。々。と。原。來。那。里。小異。變。わ。り。我。を。捕。ん。與。る。狄。と。思。ふ。の。う。う。毫。も。諜。が。ぞ。柳。下。小又。退。ひ。解。捨。馬。小。う。ち。跨。り。笠。前。を。合。ひ。り。弓。を。挾。く。身。構。を。做。ま。程。一。も。あ。ら。も。関。門。の。内。忽。焉。と。戰。鼓。の。音。置。き。門。戸。を。颯。と。う。ち。啓。く。を。こ。れ。本。関。の。頭。人。老。松。湖。大。丈。惟。一。鳥。草。絨。の。身。甲。小段。々。筋。の。戰。袍。を。う。ち。披。り。腰。小兩。刀。を。跨。へ。桃。花。馬。の。雲。珠。鞍。措。き。る。小。う。ち。騎。り。小。麻。毛。を。採。り。旗。を。進。せ。野。兵。一。百。二。三。十。名。を。前。後。左。右。小從。せ。威。勢。猛。く。見。れ。出。る。四。下。小响。く。聲。高。や。う。小。後。を。れ。大。江。親。兵。衛。我。既。小隊。兵。を。談。講。谷。小遣。し。虎。の。虚。実。を。檢。せ。し。小。那。里。小相。似。し。る。山。貓。小。あ。あ。あ。と。る。意。小爾。伴。誰。を。り。関。を。輒。く。う。ち。過。く。逃。け。て。安。房。へ。還。ら。ん。と。欲。し。たる。小疑。い。る。小。介。小是。上。を。欺。に。し。罪。死。を。容。さ。る。儘。見。る。り。あ。を。り。我。今。

雨を搦捕りて。將小京師へ献せんとす。阪本大津の両関も既小の氣を通達
 あり。身と鷹鶴ふ做を術あり。湖水を渉まわらざれば。一步も脱る路なき。
 小の氣を知らず。速小下馬して。索小被らば。とらせも果む親兵衛を。駭然とす。
 笑ひて。身済し。惟一慥小聞ね。那虎の直虎あり。素是名画の变化を。酒
 家小眼を射れ。より。原故の画幅小復り。族の美い。ぞ。知ねども。那里中留
 置。係我伴當紀二六あり。非如紀二六も立去り。那里中在る。む。ぬ。も。我射入
 る。獵箭二條の必那樹小在る。死小開をよ。も。索見ざる。飲無といへ。の。回。り。で。も
 あり。是実檢の疎忽。あ。ん。小我を外。ら。其。甚。麼。と。我。の。本。性。信。義。を。旨。と。す。
 縦。目。臆。望。御。の。歸。心。の。矢。の。如。く。ん。も。豈。唐。山。齊。の。田。文。の。故。吏。小。倅。ん
 と。謀。り。て。今。這。関。を。諭。ん。や。我。既。小。虎。を。對。治。し。て。左。京。北。小。約。束。を。果。し。て。今
 這。地。を。過。る。小。若。們。反。く。狐。疑。し。て。一。個。の。行。客。小。物。々。あ。た。緝。捕。三。昧。を。做。す。

今更小是非。及む。目小物見せん。覺期をせ。と返す。詞を半分も。听さ
 る。惟一怒。て。塵をり。鞍の前輪をうち。敲たす。あ。い。む。と。捕。捕。れ。兵。毎
 緩。と。喚。ま。す。備。雄。の。野。兵。三。千。名。鎧。槍。又。又。を。打。振。り。て。掖。落。え。て。競
 い。蒐。る。と。親。兵。衛。と。く。ら。小。箭。刺。す。敵。を。擇。む。射。す。小。其。前。小。鏃。を。打
 り。つ。矢。接。壘。の。も。煨。煉。小。あ。る。れ。が。強。小。忘。り。七。八。人。夫。場。小。控。と。倒。し。け。り。這
 弓。勢。小。辟。易。し。て。找。難。る。多。勢。の中。へ。親。兵。衛。馬。を。衝。と。衆。入。り。て。敵。の。又。又。を。掖
 小。會。り。中。る。小。儘。と。打。散。を。勢。小。向。小。前。る。け。れ。小。親。兵。衛。を。見。し。て。惟。一。小。駭。怕。れ。て。休
 ぬ。と。馬。小。拍。を。逃。走。れ。去。向。小。出。來。る。一。隊。の。人。馬。是。則。別。人。と。す。阪。本。の。関。に
 頭。人。根。古。下。厚。四。郎。鶴。宗。が。隊。兵。二。百。有。餘。を。領。り。惟。一。を。援。ん。と。馬。を。走
 り。來。ぬ。是。惟。一。是。小。力。を。引。返。し。揉。合。り。共。侶。小。親。兵。衛。を。搦。捕。す。欲。ま。れ
 とも。親。兵。衛。の。物。と。せ。馬。を。縦。横。小。馳。西。く。敵。を。左。右。討。靡。け。て。活。を。死。免。挑



大傳九郎卷三十九

水四

大坂屋敷



親兵衛
軍騎
撃令
候を
走ら
しむ

大傳九郎卷三十九

大坂屋敷

折忽地阪本の頭の方へ猛火高く燃升りて湖水の風を吹靡く煙這方へ沖りて
 鳩宗を瞻仰す。原来裏伏の者ありて火を放ちてあんな兵毎半分走りぬる疾
 減止と喚れは両隊の親兵驚慌す。相擇せざる者も多し敵の多少を料り難く阪
 本へ還りぬるも大津を投て逃走す。鳩宗も惟一も逃る隊兵誘引きて敗れ一
 路逃るにけり勢ひ已むたふされ親兵衛の逃るを趕す。那里よりともく程大
 津の関の頭へ入りける。大杖意鬼入道総物。あも亦隊兵二百有餘を投て力を惟
 一鳩宗を勅見與馬を早めり。出て本所の其甲斐も多し逃る身方へ人群打ち
 一柱も柱ぬるも只一箇不頼と謀りて大津を投て退走るを親兵衛の敵の息を
 類れ難立々々趕す。されは大津の関を破られけり。畢竟大江親兵衛の二箇を
 破りて後の話説甚摩もや。開ら又下回不解分るを聴ぬか。
 南總里見八大傳第九輯卷之二十九終

拾口編五卷之内

亦九

勝若院
 勝若院

